

2025年度

日本健康医療専門学校

シラバス （講義概要）

鍼灸学科

2年生

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	生涯にわたる体力づくりへの礎となる知識、理解を深める。	私立中高一貫校にて保健体育の授業、信州大学での体育の授業担当の実務経験		
授業科目			配当学期	区分
保健体育		2学年	前期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
井田 亜彩実		2単位	30時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
実技と講義を交え、生涯にわたる運動との関わり合いについて授業を行います。 実技では主にダンスと体づくりをメインに行います。 互いのからだを知り、理解を深めることで多様性や、現代においてのスポーツの必要性について考えて行きます。				
〈到達目標〉				
心と体を一体としてとらえ、他者との相互理解を深める活動を通して、スポーツに対する意識を多角的に思考する力を養うと共に、自ら考え、能動的に行動できる人間力を培うことを目標とします。				
2 授業内容				
第1回	3コマ	○オリエンテーション 授業の進め方と諸注意○体ほぐし運動 ○アイスブレイク		
第2回	3コマ	○体ほぐし運動 ○アイスブレイク○リズムを使ったダンス シンプルな動きから体を動かすアイデアを学ぶ		
第3回	3コマ	○ペアワークを使った表現 言葉、物を使った表現他者との違いを知り、コミュニケーション能力を育む		
第4回	3コマ	講義 生涯スポーツと多様性		
第5回	3コマ	体づくり運動 各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す		
第6回	3コマ	○実技 身体調整メソッド イラン・レヴについて他国のトレーニング方法を学び幅広い知識を得る○講義 心と体の関わりとストレス		
第7回	3コマ	○体づくり運動○グループワーク 表現ダンス 作品作り①想像力やコミュニケーション能力、自己を表現する力を養う		
第8回	3コマ	○体づくり運動○グループワーク 表現ダンス 作品作り②想像力やコミュニケーション能力、自己を表現する力を養う		
第9回	3コマ	○体づくり運動○グループワーク 表現ダンス 作品作り③想像力やコミュニケーション能力、自己を表現する力を養う		
第10回	3コマ	実技テスト		
3 履修上の注意				
体を動かす授業を行うため、準備体操はしっかり行い怪我がないようにする。頭髪・ピアス・服装の乱れなどは厳禁とし評価対象とする。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回授業で行った内容を復習しておく。				
5 教科書				
6 参考書				
講師作成プリント				
7 成績評価の方法				
定期試験・授業出席状況で評価を行う				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
筑波大学・大学院 体育学修士				
中学校・高等学校保健体育免許取得				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	鍼灸整骨院経営の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
病理学概論		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
瀧本 雄太		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
「人体の生理機能がくずれたとき、身体に何が起きているのか」をテーマに、人の疾病理解の基礎となる病因・発生機序・経過・予後など、疾病概念の本質を理解し、基礎的疾患に共通する総括的問題、すなわち退行性病変・代謝異常症・進行性病変・循環障害・炎症・免疫・腫瘍などを中心として、次の事項を学習する。				
〈到達目標〉				
①ヒトの組織・細胞・遺伝子障害とその修復について説明できる。②代謝障害、循環障害、炎症・免疫、腫瘍について説明できる。③ヒトの各臓器の主な疾病とその症状について説明できる。④本学科の学習を通じて国家試験レベルの事項とともに、チーム医療を担う医療人としての力を習得できる。 本講義の到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにある。				
2 授業内容				
第1回	第1章 総論 第2章 疾病の基本的考え方	第16回	第8章 腫瘍③	
第2回	第3章 病因①	第17回	第9章 免疫異常・アレルギー①	
第3回	第3章 病因②	第18回	第9章 免疫異常・アレルギー②	
第4回	第3章 病因③	第19回	第10章 先天性異常①	
第5回	第4章 循環障害①	第20回	第10章 先天性異常②	
第6回	第4章 循環障害②			
第7回	第5章 退行性病変①			
第8回	第5章 退行性病変②			
第9回	第6章 進行性病変①			
第10回	第6章 進行性病変②			
第11回	第7章 炎症①			
第12回	第7章 炎症②			
第13回	第7章 炎症③			
第14回	第8章 腫瘍①			
第15回	第8章 腫瘍②			
3 履修上の注意				
日常生活で耳馴染みな疾患から、そうでない疾患まで人間の疾病理解の基礎学問である。 意欲的に取り組んでもらいたい。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
一年生で履修した生理学をよく復習し臨んでもらいたい。 授業の復習は下線、カッコ抜き箇所、加筆したの理解と暗記に徹してもらいたい。				
5 教科書				
6 参考書				
サブテキストを配布する。				
7 成績評価の方法				
出席、受講態度、講義内でのテストの結果をふまえ、平常点とする。平常点に定期試験1、定期試験2の結果を加算し60%以上を合格とする				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	鍼灸院経営の実務経験		
		中学・高校の部活動のトレーナーの実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床医学総論 1		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
町田 良太		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
本講義では、医療従事者として必要な身体診察及び治療に関する医学的知識、技能に関して学習する。				
視診や触診、打診、聴診といった基本的な西洋医学的診察方法を理解しバイタルサインの測定方法とその意義、全身各部位の診察方法やその所見についての知識を修得する。				
〈到達目標〉				
患者を理解し正しく診断して適切な医療を行う上ことができるようになる。また、鍼灸臨床における患者理解や、チーム医療の一員として鍼灸師が他の医療従事者と協力して患者の治療にあたることができるようになる。身体診察に関する知識は臨床医学各論や東洋医学臨床論などの臨床科目にも深く関係するため、関連付けて理解することも目標となる。				
2 授業内容				
第1回	オリエンテーション	第16回	全身の診察	
第2回	医療面接	第17回	全身の診察	
第3回	医療面接	第18回	全身の診察	
第4回	視診・触診・打診・聴診	第19回	全身の診察	
第5回	バイタルサインの診察	第20回	全身の診察	
第6回	バイタルサインの診察	第21回	全身の診察	
第7回	バイタルサインの診察	第22回	全身の診察	
第8回	バイタルサインの診察	第23回	全身の診察	
第9回	神経系の診察	第24回	全身の診察	
第10回	神経系の診察	第25回	全身の診察	
第11回	神経系の診察	第26回	局所の診察	
第12回	神経系の診察	第27回	局所の診察	
第13回	神経系の診察	第28回	局所の診察	
第14回	神経系の診察	第29回	局所の診察	
第15回	試験解説	第30回	試験解説	
3 履修上の注意				
居眠り等せず、積極的に参加すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内容をしっかり理解する目的で予習を行い、授業内容をしっかり定着させる目的で復習を行うこと				
5 教科書				
東洋療法学校協会編教科書				
臨床医学総論 第2版				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験で60％以上の得点が単位認定の条件となる。				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	鍼灸整骨院の経営の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床医学各論 1		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
瀧本 雄太		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなっている中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。この講義では、疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得する。この時間では主に整形外科疾患、婦人科疾患、精神化疾患などを中心に学習する。				
〈到達目標〉				
臨床医学の中でもはり師きゅう師が臨床上最も治療にあたる頻度が高い整形外科疾患と、婦人科疾患や精神科疾患などを含めたその他の領域に関して知識を修得することで、臨床に際しても患者理解を深め、適切な施術が行えるようになることが目標となる。				
2 授業内容				
第1回	A.総論 B.関節疾患①	第16回	I.その他の整形外科疾患②	
第2回	B.関節疾患②	第17回	13-A.小児科疾患	
第3回	B.関節疾患③	第18回	13-B.一般外科①	
第4回	C.骨代謝性疾患・骨腫瘍①	第19回	13-B.一般外科②	
第5回	C.骨代謝性疾患・骨腫瘍②	第20回	13-B.一般外科③	
第6回	D.筋・腱疾患①			
第7回	D.筋・腱疾患②			
第8回	E.形態異常①			
第9回	E.形態異常②			
第10回	F.脊椎疾患①			
第11回	F.脊椎疾患②			
第12回	G.脊髄損傷			
第13回	H.外傷①			
第14回	H.外傷②			
第15回	I.その他の整形外科疾患①			
3 履修上の注意				
整形外科疾患は鍼灸・整骨院の臨床現場でよく遭遇する疾患が多い。卒業後の現場で活かせる知識を、経験談を交え授業を進めていく。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
整形外科疾患を理解するため身体構造、特に解剖学、生理学の知識復習をして臨んでもらいたい。				
5 教科書				
6 参考書				
サブテキストを配布する。				
7 成績評価の方法				
出席、受講態度、講義内でのテストの結果をふまえ、平常点とする。平常点に定期試験1、定期試験2の結果を加算し60％以上を合格とする				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	大学病院付属鍼灸センターの実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床医学各論 2		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
菅谷 匡美		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなっている中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。この講義では、疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得する。				
〈到達目標〉				
特にこの時間では、超高齢社会において罹患数が増えてきている消化管疾患、肝胆膵疾患、呼吸器疾患、腎泌尿器疾患に関する知識を修得することで、臨床に際して病を抱えた患者の気持ちに寄り添えるよう患者理解を深めることが目標となる。				
2 授業内容				
第1回	消化管疾患（1）口腔疾患	第16回	（1）上気道炎、急性気管支炎、肺炎	
第2回	（2）食道疾患 胃十二指腸疾患	第17回	（2）肺炎、肺結核	
第3回	（3）胃食道逆流症～胃十二指腸潰瘍	第18回	（3）非結核性抗酸菌症、COPD①	
第4回	（4）ピロリ～その他の胃疾患	第19回	（4）COPD②	
第5回	（5）腸疾患 急性腸炎～IBS	第20回	（5）拘束性呼吸器疾患、気胸	
第6回	（6）腸疾患 虫垂炎、イレウス	第21回	（6）肺癌、気管支拡張症	
第7回	（7）その他の腸疾患・腹膜疾患	第22回	（7）肺塞栓症、睡眠時無呼吸症候群	
第8回	肝胆膵疾患（1）急性・慢性肝炎	第23回	腎・尿器疾患（1）原発性糸球体腎炎	
第9回	（2）肝硬変、代謝性肝疾患	第24回	（2）ネフローゼ症候群、急性腎障害	
第10回	（3）アルコール性肝障害、肝癌	第25回	（3）慢性腎臓病、腎盂腎炎	
第11回	（4）その他の肝疾患～胆嚢炎	第26回	（4）膀胱癌、腎細胞癌	
第12回	（5）胆道癌～急性膵炎	第27回	（5）尿管結石、前立腺疾患	
第13回	（6）慢性膵炎、膵臓癌	第28回	（6）糖尿病性腎症、子宮疾患	
第14回	問題演習	第29回	問題演習	
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回の授業内容の復習を行うこと				
5 教科書				
臨床医学各論 医歯薬出版社				
6 参考書				
臨床医学総論 医歯薬出版社				
7 成績評価の方法				
定期試験 1 および定期試験 2 それぞれ60％以上の成績を合格とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	開業鍼灸師の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
衛生学・公衆衛生学		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
木下 立彦		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
衛生学は「健康な生活をおくるためには何が必要か」をテーマに、生活環境を物理的・化学的・生物学的・社会的の4つのカテゴリーとしてとらえ、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ学問である。家庭・学校・職場・地域社会・食事と栄養、運動などのライフスタイル、メンタルヘルスを中心に健康の保持・増進のために必要な事を学ぶ。				
〈到達目標〉				
病気の予防や健康増進の知識、衛生行政の仕組みや衛生統計、鍼灸師として必須の知識となる消毒法や感染予防対策についても学び、健康について多方面にわたる知識を身に付けることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	衛生学・公衆衛生学の活動と意義①	第16回	精神保健①	
第2回	衛生学・公衆衛生学の活動と意義②	第17回	母子保健①	
第3回	健康①	第18回	学校保健①	
第4回	健康②	第19回	学校保健②	
第5回	健康③	第20回	成人・高齢者の保健①	
第6回	ライフスタイルと健康①	第21回	成人・高齢者の保健②	
第7回	ライフスタイルと健康②	第22回	感染症①	
第8回	ライフスタイルと健康③	第23回	感染症②	
第9回	環境と健康①	第24回	消毒法①	
第10回	環境と健康②	第25回	消毒法②	
第11回	産業保健①	第26回	疫学①	
第12回	産業保健②	第27回	疫学②	
第13回	精神保健①	第28回	保健統計①	
第14回	まとめ①	第29回	まとめ②	
第15回	定期試験①	第30回	定期試験②	
3 履修上の注意				
私語は慎む。携帯電話・スマートフォン・飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内で確認テスト適宜行う予定				
5 教科書				
衛生学・公衆衛生学（東洋療法学校協会編）				
6 参考書				
シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）				
7 成績評価の方法				
1、定期試験①60 %・定期試験②60%で単位認知する				
2、出席状況・授業態度を「1」の点数に加味することがある				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	開業鍼灸院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
東洋医学臨床論 1		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
阿部 好史		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
東洋医学臨床論は「東洋医学概論」で学習した疾病観、診断論、治療論などの基礎を応用し、日常の鍼灸臨床で遭遇しやすい疾病について、西洋医学・東洋医学それぞれの観点から鍼灸治療の適応・不適応と病理・病証・鑑別及びその治療法について症候別に学ぶ学問である。この時間では主要症候のうち頭痛、めまい、咳と喘息、耳鳴りと難聴、便秘と下痢、月経異常、不眠を中心に学習していく。				
〈到達目標〉				
この時間では主要症候のうち頭痛、咳と喘息、めまい、耳鳴りと難聴、便秘と下痢、月経異常を中心にその診察の仕方とポイント、証決定の手順と方法、鑑別のポイント、治療計画の立案、治療穴の配穴と補瀉手技の決定までを総合的にトレーニングし、臨床で実践できるようになることを最終的な目標とする。				
2 授業内容				
第1回	治療総論と基礎の復習	第16回	咳嗽・喀痰・呼吸困難	
第2回	睡眠障害	第17回	咳嗽・喀痰・呼吸困難	
第3回	睡眠障害	第18回	歯痛	
第4回	睡眠障害	第19回	歯痛	
第5回	眩暈	第20回	耳鳴り難聴	
第6回	眩暈	第21回	耳鳴り難聴	
第7回	気分障害	第22回	耳鳴り難聴	
第8回	気分障害	第23回	冷え・冷えのぼせ	
第9回	眼精疲労	第24回	冷え・冷えのぼせ	
第10回	眼精疲労	第25回	月経不順・崩漏	
第11回	眼精疲労	第26回	月経不順・崩漏	
第12回	便秘	第27回	痛経	
第13回	便秘	第28回	痛経	
第14回	下痢	第29回	骨盤位	
第15回	下痢	第30回	総復習	
3 履修上の注意				
本講義に限らず座学は睡魔との闘い、「意欲と努力で克服する心構え！」自分で決めた道です。これを準備して臨むこと！				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
臓腑生理と五行表は暗記必須				
5 教科書				
東洋医学臨床論				
6 参考書				
冊子 東医四診の手引き				
7 成績評価の方法				
定期試験を各60点以上で合格				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
東洋医学臨床論 2		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
高松 巧		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
東洋医学臨床論は「東洋医学概論」で学習した疾病観、診断論、治療論などの基礎を応用し、日常の鍼灸臨床で遭遇しやすい疾病について、西洋医学・東洋医学それぞれの観点から鍼灸治療の適応・不適応と病理・病証・鑑別及びその治療法について症候別に学ぶ学問である。 この時間では主要症候のうち特に鍼灸臨床で取り扱う頻度の高い腰下肢痛、肩こり、頸肩腕痛、上肢痛、肩関節痛、膝関節痛、運動麻痺といった整形外科疾患を中心に学習していく。				
〈到達目標〉				
上記の症候についてその診察の仕方とポイント、証決定の手順と方法、鑑別のポイント、治療計画の立案、治療穴の配穴と補瀉手技の決定までを総合的にトレーニングし、臨床で実践できるようになることが最終的な目標となる。				
2 授業内容				
第1回	痺証①	第16回	膝関節痛②	
第2回	痺証②	第17回	復習	
第3回	頸肩腕痛①	第18回	定期試験①	
第4回	頸肩腕痛②	第19回	運動麻痺①	
第5回	頸肩腕痛③	第20回	運動麻痺②	
第6回	肩こり①	第21回	スポーツ鍼灸①	
第7回	肩こり②	第22回	スポーツ鍼灸②	
第8回	上肢痛①	第23回	老年期の鍼灸治療	
第9回	上肢痛②	第24回	小児の鍼灸治療	
第10回	肩関節痛①	第25回	顔面神経麻痺①	
第11回	肩関節痛②	第26回	顔面神経麻痺②	
第12回	腰下肢痛①	第27回	顔面痛①	
第13回	腰下肢痛②	第28回	顔面痛②	
第14回	腰下肢痛③	第29回	総復習	
第15回	膝関節痛①	第30回	定期試験Ⅱ	
3 履修上の注意				
授業開始前に着席しておくこと。スマートフォン等の電子機器の使用不可授業に関係のない私語は慎むこと。その他学則に順守する。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
東洋医学概論の知識をもとに進めていくため、運動器、神経系の解剖学的知識整理物質、臓腑の生理と病理を復習することが大事である。				
5 教科書				
東洋医学臨床論<はりきゅう編>				
6 参考書				
東洋医学概論 臨床医学各論				
7 成績評価の方法				
定期試験①と定期試験②を行いどちらも60パーセント以上を合格とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	訪問鍼灸、鍼灸整骨院での鍼灸、あん摩マッサージ指圧業の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床はりきゅう論 2		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
東垣 可奈絵		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
経絡・経穴は、鍼灸の重要な要素である。鍼灸施術を行う際の反応点・診断点・治療点となるものであるため、鍼灸を学ぶ上でもその中核をなすものである。奇穴・奇経八脈について、鍼灸臨床に必要な基礎知識を習得する。奇穴は主治を理解し、取穴することが出来ることを目標とする。また、経穴を科学的・解剖学的な側面から探求することで、東洋医学的な側面との違いを考え理解する。				
〈到達目標〉				
臨床において、経穴に対して鍼灸施術をするため、その深層にある筋肉や神経の走行を理解することが必要不可欠である。解剖学的知識を意識して取穴が出来ることを目標とする。具体的に習得する範囲として、1. 奇穴、2. 奇経八脈、3. 現代研究、4. 経穴と筋肉・神経までとし、解剖学と経穴の知識をリンクさせることで、より臨床的な講義を展開し、理解度を深める。				
2 授業内容				
第1回	経絡(経別、絡脈、経筋、皮部)	第16回	頭部の経穴と筋肉・神経1	
第2回	奇経八脈1	第17回	頭部の経穴と筋肉・神経2	
第3回	奇経八脈2	第18回	頸肩部の経穴と筋肉・神経	
第4回	奇穴(頭部)座学・取穴	第19回	部位別取穴(頭顔面部・頸肩部)	
第5回	奇穴(腹部・背部)座学	第20回	体幹の経穴と筋肉・神経1	
第6回	奇穴(腹部・背部)取穴	第21回	体幹の経穴と筋肉・神経2	
第7回	奇穴(上肢・下肢)座学	第22回	部位別取穴(体幹)	
第8回	奇穴(上肢・下肢)取穴	第23回	上肢の経穴と筋肉・神経1	
第9回	奇経八脈と奇穴の復習	第24回	上肢の経穴と筋肉・神経2	
第10回	経絡経穴の現代的研究1	第25回	上肢の経穴と筋肉・神経3	
第11回	経絡経穴の現代的研究2	第26回	下肢の経穴と筋肉・神経1	
第12回	取穴復習(体幹)	第27回	下肢の経穴と筋肉・神経2	
第13回	取穴復習(四肢)	第28回	部位別取穴(下肢)	
第14回	取穴口頭試問	第29回	取穴口頭試問	
第15回	総復習	第30回	総復習	
3 履修上の注意				
取穴実技においては実技細則を遵守すること。実技細則違反は受講を認めない。 学則に従い受講すること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業冒頭に確認試験を行うため、毎時間復習をして臨むこと。				
5 教科書				
新版 経絡経穴概論 医道の日本社				
6 参考書				
鍼灸学 経穴編(東洋学術出版社)、プロメテウス解剖学アトラス、カラー版 経穴マップ 第2版				
7 成績評価の方法				
各定期試験が60%以上の者を合格とする。 なお、暗唱試験及び経穴番付が不合格の場合、評価を取り消す。				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	鍼灸整骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床はりきゅう論 3		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
金 世野		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
鍼灸臨床において患者を治療する際は、医療面接と身体診察から得た情報をもとに病態の鑑別と治療計画の立案を行う。この講義では鍼灸臨床に必要な医療面接と身体診察についてその理論を理解し、実践的な技術を身に付けることを中心課題とする。				
医療面接では良好な患者-鍼灸師関係を構築するために必要なコミュニケーション能力や、医療面接に関する基本的な知識・技術・態度を、ロールプレイを通じて身に付けることを目標とする。身体診察では東洋医学的身体診察として脈診・腹診・舌診についてその理論を学び技術を身に付け、西洋医学的身体診察としては整形外科的理学検査を中心にその理論を学び技術を身に付ける。				
〈到達目標〉				
医療面接と身体診察を用いて病態を把握する能力を身につけ、実際の診察技術として行えるようになることを最終的な到達目標とする。				
2 授業内容				
第1回	整形外科的理学検査（頸肩部）	第16回	四診について	
第2回	整形外科的理学検査（上肢部）	第17回	舌診	
第3回	整形外科的理学検査（胸郭部）	第18回	舌診	
第4回	整形外科的理学検査（胸郭部）	第19回	脈診	
第5回	整形外科的理学検査（腰下肢）	第20回	脈診	
第6回	整形外科的理学検査（腰下肢）	第21回	腹診	
第7回	整形外科的理学検査（腰下肢）	第22回	腹診	
第8回	整形外科的理学検査（腰下肢）	第23回	問診	
第9回	整形外科的理学検査（腰下肢）	第24回	問診	
第10回	医療面接	第25回	問診	
第11回	医療面接	第26回	問診	
第12回	ロールプレイ①（総復習）	第27回	総復習	
第13回	ロールプレイ②（総復習）	第28回	総復習	
第14回	復習（筆記試験）	第29回	総復習（筆記試験）	
第15回	定期試験	第30回	定期試験	
3 履修上の注意				
実技細則違反は受講を認めない。各自確認し、厳守すること				
ロールプレイを実施して授業を進めていくので、積極的に参加をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業日程に沿って当該項目の内容を予習すること。				
5 教科書				
新版東洋医学概論（医道の日本社）、臨床医学総論（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
鍼灸臨床問診・診察ハンドブック（医道の日本社）				
7 成績評価の方法				
筆記試験と実技試験の結果どちらも60％以上で合格とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床はり学・臨床きゅう学			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
あはきの適応判断		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
鈴木 誠		1単位	30時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
実際の臨床現場では時に鍼灸治療不適応の患者に遭遇する場合がある。この時間では鍼灸師が行える医療面接および身体診察の結果から、鍼灸治療の適不適について判断できるように、医療施設への紹介を検討すべき疾患の症状・所見について学ぶ。 具体的な内容として実際の診察技術として運動機能の検査、感覚機能の検査、反射検査、脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査などの検査技術を修得するとともに、臨床における鍼灸治療の適不適を総合的に判断する知識を学ぶ。				
〈到達目標〉				
運動機能の検査、感覚機能の検査、反射検査、脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査などの検査技術を修得することで、臨床における鍼灸治療の適不適を総合的に判断する能力を身に付けることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス			
第2回	整形外科的理学検査復習①			
第3回	整形外科的理学検査復習②			
第4回	整形外科的理学検査復習③			
第5回	神経診察①運動系検査			
第6回	神経診察②運動系検査			
第7回	神経診察③反射検査			
第8回	神経診察④感覚系検査			
第9回	神経診察⑤脳神経検査			
第10回	神経診察⑥脳神経検査・髄膜刺激徴候			
第11回	鍼灸治療適応疾患の鑑別①整形外科疾患			
第12回	鍼灸治療適応疾患の鑑別②神経疾患			
第13回	筆記試験			
第14回	実技試験			
第15回	実技試験			
3 履修上の注意				
学生規則・実技細則を遵守して受講すること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
患者の病態を鑑別するためには、1年次に学んだ解剖学・生理学をしっかりと復習して授業に臨むこと				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
筆記試験、実技試験ともに60％以上の点数を合格とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
鍼灸院の臨床経験有 現在は個人で訪問治療、スポーツトレーナーとして活動。				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
病態生理		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
高松 巧		1単位	30時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
病態生理学とは、病気のときに体内で起きている生理学的変化を把握するための科目のこと。これが正しく理解できないと、当然、正しい治療方針の立案はできない。患者さんの体内で生じている機能や構造の乱れを認識し、正常な機能や構造の知識に照らして「どうしてそうなっているのか」を把握し、「よりよい状態にするために、こうすればいいのか」につなげるための素地をつくる。				
〈到達目標〉				
学校内の臨床実習にて、患者さんが訴える主要な症状の原因を把握し、活用できる知識を習得することを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	疼痛			
第2回	疼痛			
第3回	頭痛			
第4回	頭痛			
第5回	腹痛			
第6回	腹痛			
第7回	咳嗽			
第8回	咳嗽・喀痰			
第9回	喀痰			
第10回	睡眠障害			
第11回	便秘			
第12回	便秘・下痢			
第13回	下痢			
第14回	総復習			
第15回	定期試験			
3 履修上の注意				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
主に生理学の知識が必要となる。				
5 教科書				
新版 東洋医学臨総論（はりきゅう編）、臨床医学総論 第2版				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
試験で60点以上の成績をもって合格とする。				
※最終成績は、受講態度・出席状況を加味する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	接骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
生体観察		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
佐々木 慎司		1単位	30時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
鍼灸師は、2人として同じではない人体を、眺めるだけでなく、実際に触れられる必要がある。本科目では、系統解剖学で学習した構造同士がつくる解剖学的な特異構造に焦点を当てる。その多くは、鍼灸領域で有用な治療点として用いられることが多い。 知識の習得により、解剖学的に脆弱な部位を避けられるようになり、また目標構造を的確に狙い、効率の良い施術が行えるようになる。				
〈到達目標〉				
各部の局所解剖を学ぶことで、人体についての理解を深め、安全で効果的な施術をする際の拠り所となる知識を身に付けることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	頸部の局所解剖学①			
第2回	上腕部の局所解剖学			
第3回	前腕部と手部の局所解剖学			
第4回	頸部の局所解剖学②			
第5回	胸部の局所解剖学			
第6回	背部の局所解剖学			
第7回	腰部の局所解剖学			
第8回	兎径部の局所解剖学			
第9回	大腿部の局所解剖学			
第10回	下腿部と足部の局所解剖学			
第11回	頸神経叢と腕神経叢の走行と経穴			
第12回	腰神経叢の走行と経穴			
第13回	仙骨神経叢の走行と経穴			
第14回	総復習			
第15回	定期試験			
3 履修上の注意				
集中して講義を受講できるようにする為に、体調管理を行うこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
骨の部分名称、筋の走行、主要な神経・血管の走行等。系統解剖学の知識が必要となる。				
5 教科書				
解剖学第2版 東洋療法学校協会編				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
試験で60点以上の成績をもって合格とする。 ※最終成績は、受講態度・出席状況を加味する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	実習			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう実技２ A		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
金 世野		2単位	60時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
鍼灸臨床において、どの経穴をどのような場合に使用するかは必須となる知識である。その知識の基礎としては所属経絡、要穴、局所解剖の筋と神経の知識が一般的であるこの授業の前半では鍼灸臨床において使用される頻度の高い経穴と取り上げ、どのような場合に用いられるか、その用いた治療の根拠は何かを学ぶ、またその経穴の局所解剖をもとにした深度や角度・注意すべき点などについて学ぶ。				
〈到達目標〉				
鍼灸臨床において使用される頻度の高い経穴を取り上げ、取穴し経穴に対して刺鍼・施灸ができるようにすることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	基礎実技の復習 要穴と筋と神経の復習	第16回	定期試験1（後半）	
第2回	下肢にある経穴と使用方法	第17回	頭痛治療	
第3回	下肢にある経穴と使用方法	第18回	内耳治療	
第4回	上肢にある経穴と使用方法	第19回	腹痛治療	
第5回	頭顔面部にある経穴	第20回	特別授業	
第6回	体幹の経穴とその使用方法と危険深度と角度	第21回	女性器疾患	
第7回	腰痛に対する治療	第22回	女性器疾患	
第8回	腰痛に対する治療	第23回	不妊治療	
第9回	膝痛に対する	第24回	眼精疲労	
第10回	肘痛に対する治療	第25回	難経六十九難	
第11回	頸肩腕症候群に対する治療	第26回	難経六十九難	
第12回	自律神経に対するアプローチ	第27回	難行七十五難	
第13回	免疫治療	第28回	総復習	
第14回	復習	第29回	定期試験2（前半）	
第15回	定期試験1（前半）	第30回	定期試験2（後半）	
3 履修上の注意				
実技細則違反は受講を認めない。各自確認し、厳守すること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
毎回の授業で要穴、局所解剖、臓腑弁証、難経六十九難など授業進行に合わせた小テストを行う。各自復習して臨むこと。				
5 教科書				
6 参考書				
図解鍼灸臨床手技マニュアル(医師薬出版株式会社)				
鍼灸療法技術ガイド（文光堂）				
7 成績評価の方法				
実技試験60点％以上かつ各小テスト80％以上を合格とする。指定された課題を未提出の場合は評価取り消しとする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
鍼灸整骨院勤務				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	実習	鍼灸マッサージ治療院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう実技2 B		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
遠藤 好美		2単位	60時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
鍼灸臨床において骨・筋・その他の構造物の位置を知り実際に触診できること正確な取穴や安全で効果的な施術のために不可欠な知識である。この科目では体表より触知できる構造について実際に触診して確認していく。またそれに基づき安全な刺鍼深度・角度についても理解したうえで刺鍼・施灸ができるようになることを目標とする。				
〈到達目標〉				
体表より触知できる構造について実際に触診ができ、それに基づき安全な刺鍼深度・角度についても理解したうえで刺鍼・施灸ができるようになる。				
2 授業内容				
第1回	イントロダクション、灸頭鍼、台座灸	第16回	骨盤の筋の触診と刺鍼・施灸 大腿と膝の触診と刺鍼・施灸 下腿の筋の触診と刺鍼・施灸① 下腿の筋の触診と刺鍼・施灸② 定期試験2	
第2回	前腕の骨の触診と刺鍼・施灸、隔物灸①	第17回		
第3回	前腕の筋の触診と刺鍼・施灸	第18回		
第4回	肩甲骨と周辺の筋の触診と刺鍼・施灸	第19回		
第5回	基礎技術総復習	第20回		
第6回	上腕部の触診と刺鍼・施灸、隔物灸②			
第7回	低周波鍼通電療法			
第8回	脊柱の触診と刺鍼・施灸 紙上施灸			
第9回	背部の筋の触診と刺鍼・施灸 紙上施灸			
第10回	定期試験1			
第11回	胸部・腹部の触診と刺鍼			
第12回	頭部の骨の触診と刺鍼・施灸			
第13回	顔面の筋の触診と刺鍼・施灸			
第14回	吸角療法			
第15回	骨盤の触診と刺鍼・施灸			
3 履修上の注意				
実技細則を順守すること。自ら技術を習得しようとする積極的な態度で臨むこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
1年次に学習した骨・筋についてしっかり復習しておくこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
指定された課題の提出状況と実技試験（鍼・灸）により評価を行う。指定された課題が提出されていない場合は評価取り消しとする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	実習	開業鍼灸師の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床実習前施術実技試験等		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野口 智立		1単位	30時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
OSCE（Objective Structured Clinical Examination＝オスキー）とは臨床実習を行う臨床能力を身に付けているかを試す客観的臨床能力試験のことである。この講義では3年次の臨床実習に向けて、1・2年次に学んだ医療面接、身体診察、取穴、施鍼、施灸について、必要な知識・技能・態度を修得しているかを確認する。鍼灸臨床の一連の流れを実践しながら各項目の評価を受け、基準に到達していない場合はフィードバックを受けて改善することが目的である。				
〈到達目標〉				
3年次の臨床実習に向けて、円滑に鍼灸臨床の一連の流れである患者接遇、医療面接、身体診察、施術などを実践できることを到達目標とする。				
2 授業内容				
第1回	イントロダクション、試験概要説明			
第2回	鍼灸実技練習①			
第3回	理学検査、東洋診察練習①			
第4回	医療面接、経穴取穴練習①			
第5回	鍼灸実技練習②			
第6回	理学検査、東洋診察練習②			
第7回	医療面接、経穴取穴練習②			
第8回	鍼灸実技練習③			
第9回	理学検査、東洋診察練習③			
第10回	医療面接、経穴取穴練習③			
第11回	プレ臨床実習①			
第12回	プレ臨床実習②			
第13回	総合練習			
第14回	技能検定 1（医療面接、東洋医学的診察）			
第15回	技能検定 2（鍼、灸、理学検査、取穴）			
3 履修上の注意				
実技細則を順守すること。自身が臨床を行うことをイメージして実習に臨むこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
鍼灸基礎実技および応用実技、経絡経穴概論、鍼灸診察学、鑑別診断学の知識は必須である。しっかり復習しておくこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
医療面接、身体診察（東洋医学的・西洋医学的）、取穴、鍼灸実技について、各項目を評価する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
2010年鍼灸教員免許取得				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床実習	鍼灸マッサージ治療院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床実習A		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
高松 巧、金 世野、東垣 可奈絵		1単位	45時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を見学することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術がどのように応用されているかと知り、自分自身で面接から治療後までのアドバイスをを行うことができるようになり、患者さんのもつ諸問題を解決しながら適切な患者－治療者関係の構築をはかれるようになるにはどうしていけばよいかを考えることを目的としている。一連の鍼灸臨床のプロセスの見学を通して学生自身が「自分だったらどのような施術をするか。」「自分の問題点はどこにあるのか」「その問題点を解決するためには何を学習すればよいのか」「自己学習した結果、まだ何が足りないか」を考えながら学習をすすめ、それを解決する姿勢を身につけることが大切となる。				
〈到達目標〉				
臨床現場での治療を見学することで、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術をがどのように応用されているかを知り、自分自身が面接から治療後までのアドバイスをを行うことができるようになるようするにはどうすればよいかを考えることを目標とする。また実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技術を身に付けることも目標となる。				
2 授業内容				
第1回	臨床実習			
第2回	臨床実習			
第3回	臨床実習			
第4回	臨床実習			
第5回	臨床実習			
第6回	臨床実習			
第7回	臨床実習			
第8回	臨床実習			
第9回	臨床実習			
3 履修上の注意				
自分であったらどのような対応・施術をするかを常に念考え、積極的な態度で臨むこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
臨床実習においてはこれまでに学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識を身に付けて臨む。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
出席状況および実習への取り組み方、授業を通しての成長度、課題の提出状況などを元に総合的に評価する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域	鍼灸院院長の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目A		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
山元 大樹		2単位	40時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
この講義は、鍼灸師として身に付けるべき基礎知識を総合的に学習する。また自分自身の価値観を明確にして、キャリアイメージを思い描く。さらに「鍼灸師」という職業について深く理解し、鍼灸医学の今後の展望や自分自身がどのような鍼灸師になりたいかについて、学生自らが考えながら学習をすすめることを目的とする				
〈到達目標〉				
どんな人生を歩みたいか。その上で「鍼灸師」としてどのような生きていくのか。思い描ける自分になる。職業について深く理解し、鍼灸医学の今後の展望を学生自らが考えることができるようになる。				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス歴史を学ぶ価値（あはき史）	第16回	臨床実習に向けて	
第2回	リベラルアーツ（主に歴史について）	第17回		
第3回	あはき史①	第18回		
第4回	あはき史②	第19回		
第5回	あはき史③	第20回		
第6回	歴史から見える現代の課題（鍼灸師の今後の展望を考える）			
第7回	論文①			
第8回	論文②			
第9回	対患者コミュニケーション①			
第10回	対患者コミュニケーション②			
第11回	臨床実習に向けて			
第12回	臨床実習に向けて			
第13回	臨床実習に向けて			
第14回	臨床実習に向けて			
第15回	臨床実習に向けて			
3 履修上の注意				
自分がどのような鍼灸師になりたいのかをイメージしながら臨むこと。参加型の授業の場合は積極的態度で臨むこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
提出課題及び最終評価のレポート提出で評価を行う。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				